

第16回 下野市行政改革推進委員会 会議録

日 時 平成24年8月9日（木） 午後1時30分～3時00分
場 所 下野市保健福祉センターゆうゆう館会議室
出席委員 杉原弘修会長、飯島陽子委員、金子伸禄委員、高山忠則委員、田辺伸一委員、渡辺欣宥委員、関口博之委員、前原保彦委員
出席者 板橋副市長、古口教育長、川端総合政策部長、篠崎総務部長、伊沢市民生活部長、蓬田健康福祉部長、落合産業振興部長、大門建設水道部長、鶴見教育次長
事務局 塚原総合政策課長、星野主幹兼課長補佐、金田主幹、山内主幹、古口主査
傍聴者 なし

○次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
 - (1)会議録署名人の指名
 - (2)第二次下野市行政改革大綱実施計画進捗状況報告について
 - (3)行政評価市民評価について
 - (4)今後の日程について
 - (5)その他
- 4 閉会

○あいさつ

(杉原会長) お久しぶりです。これからまた推進委員会を開催してまいります、よろしく願いいたします。
本日は3時を目途に会議を終了したいと思いますので、あいさつはこれくらいで、早速議事に移りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

(板橋副市長) 皆さんこんにちは。副市長の板橋です。本来ならば、推進本部長である広瀬市長がご挨拶するところですが、代わりましてごあいさついたします。
委員の皆さんには、ご多忙の中の行政改革推進委員会にご出席くださりまして、ありがとうございます。また、日頃から当市の行政に対しましては、ご理解とご協力を賜りこの場を借りて感謝申し上げます。今年には合併後7年目を迎えて、10年間の財政支援措置、合併特例債の期限まであと4年となりました。昨年度から実施されている総

合計画基本計画は、後期4年間の計画でして、合併自治体に有利な財政制度をフルに活用して、新市づくりの総仕上げを行おうとしています。

まちづくりの総仕上げを行うための基盤となるのは財政状況ですが、昨年の10月に下野市長期財政健全化計画を作成し、無理のない政務運営を行使して、実現可能な財政基盤を確立していくということを目的にして、経常経費の無駄の排除や、各種財務指標の具体的な目標を定めてその安全圏内に抑える方針を立てて、財政の健全運営に努めています。

行政改革については、第二次行政改革大綱に基づいて、3つの基本方針、7つの重点項目を定めて進めています。

本市の行政改革の特徴としては、この推進委員会のご意見・ご提言を踏まえながら、500を超える事業全てについて事務事業評価を実施して、さらに市民目線で事業を評価してもらうため、平成20年度から市民評価を実施しています。その結果、市民の利便性向上と、各種財務指標も合併時と比べて大幅に改善していて、一定の成果が出ているものと考えています。

これから超高齢化社会を迎えるために、国の方では消費税増税法案を出すところですが、増大する社会保障経費などを賄うためにも消費税を増額するわけですが、一方ではユーロの先行き不安とか、アメリカ経済の先行き不安とか、歴史的な円高で経済が落ち込んでいる状況で、何らかの増税案を検討しているわけです。

また、昨年の未曾有の被害をもたらした東日本大震災からの復興を目指しているところです。このように内外の情勢が大変厳しい状況ですが、住民に身近な基礎自治体である市町村が、その責務を適切に果たしていくためにも、変動する社会情勢に柔軟に対応して、安定的で簡素化する効率的な行政運営を確立することが求められています。

本市におきましては、合併の特例期間が終了した後も、健全な行政を維持できるように、さらに公共サービスの向上のためにも、長期的な視野に立って必要な行政改革を推進していきたいと考えています。

委員の皆さんには、ご指導と、それから着実な推進のために、引き続き忌憚のない意見や提言をいただき、活発な論議をされますようお願い申し上げます。

(行政改革推進本部員及び事務局職員自己紹介)

○議事

(1) 会議録署名委員の指名

(杉原会長) 今回の会議録署名委員を指名します。名簿順で、今回は、渡辺委員と前原委員をお願いします。

(2) 第二次下野市行政改革大綱実施計画進捗状況報告について

(杉原会長) 第二次下野市行政改革大綱実施計画進捗状況報告について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料1に基づき説明

この報告書は第二次下野市行政改革大綱実施計画の平成23年度の進捗状況の経過報告です。

- ・1ページ、「1 実施計画の進捗状況について」は、今回の全体的な評価等を表現し、「計画どおりのA評価は半数以上だが、推進強化による計画全体の向上が必要」としました。
- ・進捗状況の内容については、実施項目63項目について評価集計結果を掲載しました。「計画以上」のS評価はありませんでしたが、「計画どおり」のA評価は36項目となっており、「やや遅れている」のB評価が26項目、「ほとんど進んでいない」のC評価が1項目でした。全体の57.1%がA評価となっています。
- ・重点項目ごとの評価の項目数は、下段の表のとおりですが、「今後は実施計画の推進強化を図りながら、特に低い評価の実施項目を推進重点化し、計画全体の向上を図っていく」としました。

次に2ページの「2 取組における財政効果について」を説明します。

- ・平成23年度の財政効果額としては、約2億7,400万円となりました。
- ・財政効果について、額の大きいものを説明します。

今年度から財政効果額として上がったもので、2 受益と負担の見直しと協働の推進 (2)補助金等の整理合理化と協働型社会の構築 1 補助金の公正な見直し の「平成23年度補助金の見直しに係る基本方針に基づく全補助金の見直し」により、既存補助金に対して、約2,967万円の削減となりました。

また、4 財政改革の推進 (3) 予算査定改革 の「経常枠内経費削減」として、ほとんどの部署が目標を達成し、約1億3,342万円の削減効果がありました。昨年に引き続き財政効果が上がったものとして、3 組織人員の見直しと行政運営体制の充実 (1) 職員数・臨時職員数の見直し 1 定員適正化計画の推進と業務改善活動の推進 の「定員適正化計画による職員数の減」として、職員4名分の人件費3,000万円が、また、「早期退職による職員数の減」として、職員2名分の人件費約2,400万円が削減となりました。

4 財政改革の推進 (4) 歳入確保とコスト削減 2 未(低)利用財産の適正管

理の項目で、「未利用市有地の売却収入」、3件分3,350万円の収入効果がありました。

- ・財政効果額については、金額に換算できない実施項目もあることから、あくまでも概算の数値ということになります。

次に3ページの「Ⅱ 報告書の見方について」を説明します。

- ・報告書は、平成22年度と比較し内容を確認できるようになっています。
- ・実施年度のスケジュールに表示した、「検討」「策定」「実施」については取り組み内容の状況を表しました。
- ・進捗状況は、4段階で評価しました。
取組内容が、計画内容や実施年度スケジュールと比較して、「計画以上」のS評価、「計画どおり」のA評価、「やや遅れている」のB評価、「ほとんど進んでいない」のC評価となります。
- ・下段には、「事業進捗のイメージ」を表現しました。これは計画の目標に対して、5年間で達成させるイメージです。平成22年度でA評価であったものでも、次年度の平成23年度は何も行わず進展がなかった場合には、B評価となってしまいます。

5ページからの「Ⅲ 実施項目における進捗状況」について説明します。

「進捗状況評価のコメント」は、前年の評価から変更があった項目について、また、B評価及びC評価の事業について、評価に至った考え方を記入し、その右側に「平成24年度の対応」の項目を加えています。

主だったものについて説明します。

- ・5ページ、1番「トップマネジメント機能の強化」については、機能分担や実効性が上がっているため、昨年のB評価からA評価としました。
- ・2番「幹事課機能の強化」については、人員配置を含めた検討について不十分なため、昨年に引き続きB評価としました。
- ・6ページ3番、「プロジェクトチームの有効活用」については、現在プロジェクトチームは1つの設置のみで十分な活用が見受けられないためB評価としました。
- ・9ページ4番、「審議会・委員会等の見直し」については、審議会等については、必要性の検証や見直しが進められているが、まだ不十分と思われることからB評価としました。
- ・5番、「イベントの見直し」については、イベント事業等の整理統合の実績が見受けられず、また、市の一体感醸成とするイベントも行われていないためC評価としました。
- ・12ページ4番、「新たな電算化投資の検討」については、新庁舎建設事業の進捗に伴い、今後、新庁舎に設置する情報機器等についての検討が重要になってくることからB評価としました。

- ・ 13 ページ、「類似の公共施設の運営方法の見直し」については、類似施設の運営方法見直しの検討は進んでいるが、全体的に実績等が見受けられないためB評価としました。
- ・ 14 ページ(5) 1 番、「公共事業の効果的手法の検討」については、指定管理者制度の導入は少しずつ進んでいるが、P F I、民間委託、民営化等の具体的な検討が望まれることからB評価としました。
- ・ 16 ページ4 番、「農業公社運営の見直し」については、業務の集中など組織の効率化などを図ってきたことは評価するが、具体的な経費削減目標が達せられていないため、B評価としました。
- ・ 17 ページ3 番、「適正な受益者負担の検討」については、下水道事業の受益者負担金等の検討は進めているが、全庁的な取り組みが必要なためB評価としました。
- ・ 18 ページ(2) 1 番、「補助金の公正な見直し」については、各種団体への補助金について基本方針を作成し見直しを進めたが、継続的に補助金の整理合理化を進める必要があるためB評価としました。
- ・ 20 ページ3 番、「臨時職員、非常勤職員等の活用」については、去年はA評価でしたが、臨時職員の人件費を各課で計上したことにより、一般職員が減る中、より現状に即した人員管理をした結果、臨時職員のみでは賃金が増額となりました。臨時職員のコストも減少させる必要があることからB評価としました。
- ・ 21 ページ1 番、「給与制度、運用・水準の適正化」については、引き続き給与水準の見直しを進める必要があることからB評価としました。
- ・ 22 ページ3 番、「人事評価制度の本格的運用」については、評価者の適正評価等について、改善がみられるが、さらに改善取り組みが必要と思われることからB評価としました。
- ・ (3) 1 番、「人材育成基本方針等の活用」については、活用の実績が少なく、周知が更に必要と思われるためB評価としました。
- ・ 23 ページ、「専門性を持った職員の養成」については、専門分野におけるスキルアップを目指した研修への受講が見られるが、積極的活用とまではまだ言えず、B評価としました。
- ・ 24 ページ3 番、「若手職員や女性職員の登用拡大」については、女性職員や若手職員の雇用拡大が不十分であり、今後も積極的登用が必要と思われることからB評価としました。
- ・ (4) 1 番、「組織機構の見直し」については、行政組織機構の見直しは進んでいるが、成果が現れてきていないことからB評価としました。
- ・ 25 ページ2 番、「グループ制の効果的な運用」については、グループ制度導入の効果の検証が不十分であると思われることからB評価としました。
- ・ 26 ページ4 番、「現庁舎のあり方の検討」については、現庁舎についての検討は進んでいるが、方向性の結論に至らなかったことからB評価としました。
- ・ (5) 1 番、「職員研修の充実」については、今後も効果的な研修カリキュラムの充

実を図っていく必要があるためB評価としました。

- ・ 27ページ3番、「人事異動自己申告制度の充実」については、事業の振り返りや自己評価など内容の充実が見られ、2か月前倒して実施するなど、制度の充実が見られるため、昨年のB評価からA評価としました。
- ・ 30ページ、「予算査定の改革」については、予算査定の改革として、経常枠内経費削減効果は上がっているが、課題を残しているためB評価としました。
- ・ 31ページ2番、「未(低)利用財産の適正管理」については、市が所有する未利用財産の売却や貸与等は、今後も引き続き推進していく必要があることから、B評価としました。
- ・ 32ページ3番、「公共工事コスト削減行動計画の策定」については、公共工事コスト削減に向けての取り組みが不十分であることからB評価としました。
- ・ 34ページ2番、「審議会等委員の公募と女性委員の積極的登用」については、全体的には女性委員の割合がやや低い状況であり、今後も積極的な登用が必要と思われるためB評価としました。
- ・ 3番、「市政懇談会等の充実」については、昨年はA評価でしたが、ランチトークについて、震災直後の年度当初に実施できなかったことなどのため、目標件数に至らないなど、ランチトークが停滞気味のため、B評価としました。
- ・ 35ページ5番、「わかりやすい公文書等の推進」については、公文書等を見ると、まだ難しい文字、堅苦しい文章があるためB評価としました。
- ・ 37ページ「議会への働きかけ」については、引き続き取り組みが不十分と思われるためB評価としました。

以上、評価について説明しましたが、進捗状況がB評価・C評価だったものは、右側の欄に、今後の対応などを記載しました。それらを踏まえて、今年度以降、行政改革の取組を進めていきます。 以上です。

- (杉原会長) 今の説明について、委員の皆様からご意見、ご質問をお願いします。
- (金子委員) 17ページの2番「コンビニ納税」について、手数料は、どれぐらいかかりますか。
- (篠崎総務部長) 1件55円の手数料がかかります。
- (金子委員) コンビニ納税は、全体のどれぐらいの割合ですか。
- (篠崎総務部長) 5%ぐらいです。
- (関口委員) 6ページの「プロジェクトチームの有効活用」について、B評価になっていて、現在1つしかないが、役所はこれをいくつか作って、横断的な問題点の議論などをやった方がいいので、どんどん増やすべきと思いますが、いかがお考えですか。
- (前原委員) それに関連して、ほかのプロジェクトチームが、立ち上がらなかった理由や要因は分析していますか。

(川端総合政策部長) 現在は、庁舎建設プロジェクトチーム1つだけが稼働している状況だが、多いときは4～5個のプロジェクトチームがありました。特に合併当初は、旧町でまちづくりの考え方も若干違って、擦りあわせが必要でした。また、新規事業についても必要でしたので、プロジェクトチームはいくつか稼働していました。ある程度課題整理が進み、今現在は1つだけになっています。

こういうプロジェクトチームだけではなく、庁内には、いろいろな委員会組織があります。プロジェクトでやっていくものと各委員会でやっていくものがある、若干混同している気がします。もう少し整理して、プロジェクトチームが有効に活用できるように、取り組んでいきたいと考えています。

(板橋副市長) いわゆるプロジェクトチームのほかに、庁内のワーキンググループも存在し、課題に対する調査検討を行っています。例えば、自治基本条例の自主研究に、若手職員11名でワーキンググループを組織し、外部委員会と調査・研究を進めています。また、組織改革の検討会議を実施しており、ワーキンググループに相当するものと思います。ワーキンググループの活用は、もう少し検討する余地は残っているとは思いますが、柔軟にやっていきたいと思っています。

(関口委員) 進捗状況の報告なのだから、こういうプロジェクトがあって、いつまでに解決して、今こういうプロジェクトチームがありますとはっきり書いておかないと、いくつあって何をやっているかわかりません。そういう報告書を書いてほしい。

今残っている新庁舎建設プロジェクトチームですが、今あるたった一つのプロジェクトがB評価とあります。庁舎建設間近なので、今頃、まだ方向性が至らなかったなどでは、悲しいのではないかと思います。プロジェクトチームにもっと力を入れてやらなくてはいけないのではないのでしょうか。

(川端総合政策部長) 26ページに「現庁舎のあり方の検討」がありますが、新庁舎建設と一緒にプロジェクトチームの中で検討しています。3庁舎等のそれぞれをいかにして活用していくか、また、取り壊し・貸付も含めて広く検討を重ねていまして、間もなくまとまるところです。23年度中にまとめたかったが、遅れていますのでB評価となっています。

(板橋副市長) ご指摘のありました実質的なプロジェクトチームについても、今後加筆していくようにします。

(渡辺委員) 27ページの職員提案制度の活用は、平成22年度が16件で、23年度が17件とほとんど変わっていないようだが、前年度の委員会でも、職員からもう少し提案の増加を求めると意見したところですが、提案制度ではなしに、自分が担当する業務の問題点を提示して

もらう方法が、件数が増えていくのではないのでしょうか。

(川端総合政策部長) 昨年と同じ指摘をいただき、まさにそのとおりのと思います。平成24年度からは、庁内各課のグループから、少なくとも1つの提案を出させるようにして、現在進めています。

(金子委員) 27ページの「職員提案制度の活用」を見ると、提案数が16提案から17提案とあまり変わっていないのに、A評価はおかしいのではないですか。

(川端総合政策部長) 提案の仕方が、今まではハードルが高いものでした。率直な意見が出やすいように、条件を改善しています。各課において少なくとも同じくらいの提案をできるように周知していました。確かにA評価は甘いという指摘もありましたが、引き続き提案の増加に取り組んでいきます。

(前原委員) 私は、あまり期待できないと思います。というのは、その前のページに「グループ制の効果的な運用」というのがありますが、コメントに「効果の検証が不十分である」とあります。具体的な取り組みとして、グループメンバーの創意工夫を引き出しとありますが、職員に実際に話を聞くと、どうもそんな意識はないような気がします。職員提案制度は、一人ひとりの評価につなげてよいのではないのでしょうか。あるいは提案内容によっては、ある程度の報奨制度を設けて、何段階かで表彰してあげても良いのではないかと思います。何人かの職員に聞きましたら、提案しても何のメリットもないと言った職員がいました。そういう職員がいる限り、たぶんグループ制度があつたって、何も変わってこないと思います。B評価が非常に多いのは、職員意識に問題があるのではないのでしょうか。提案制度をやるのであれば、もっと力を入れてやらなければ、ただの飾りだけだと感じます。

(関口委員) 25ページの「グループ制の効果的な運用」に移りつつあると思いますが、グループで検討するといいい提案が出るのではないですか。これを効果的に、強烈に進めることがいちばん良いと思います。そして、報奨を出したりして提案をたくさん出してもらいます。それによって、その前の項目の「組織機構の見直し」がありますが、これから新庁舎に移って、いままでバラバラでやっていたものを統合整理していくと、仕事も集約されて便利になります。そうすると、ますますグループ制がこれから重要になってくるのではないのでしょうか。ぜひ、強烈に進めて行ってほしいと思います。年度が替わって、人が変わりますが、人事異動により、何人か一遍に代わるとうまくないと思います。半分以上代わると元に戻ってしまいます。だから、グループでやって、グループで相談して、それで仕事

を引き継いでいかないと、会社や官公庁はうまくないと思います。

その辺から、グループ制や組織を考えたらよいのではないのでしょうか。

(篠崎総務部長) 職員のモチベーションを保ち、意識改革することや組織の見直しは、当然必要です。グループ制(係制)を引いていますが、グループ内の人が異動しても、グループの中で仕事を共有し合ってフォローしていく仕組みになっていますが、小さい係は課内で他のグループにまたがって横断的に仕事をやっていくようにしています。今年度から行政組織の見直しに着手しています。職員にいかにやる気を出させるかを考えていきたいと思っています。

(杉原会長) 事業評価というよりは、そのコメントの内容に対しての厳しい意見が出ていますが、委員のみなさんは長いことかかわってきていますので仕組みが分かっているから厳しい意見を出してきています。ぜひ、それを重く受け取ってほしいと思います。

私たちはこういうやり方に慣らされていますが、この進捗状況報告書を一般の人が見たときに、S評価は何だろうかと思っています。一つも実績がないのでわからないと思います。計画以上のことが行われたという実績がないとS評価にならないのですが、そうだとすると、目標値として計画以上のことをやってもいいということがあれば、それもわかるかもしれません。計画通りだとA評価にしかならない、こういう風になるとS評価になるという、具体的なものが市民に分かるように、S評価になる基準がほしくなります。今のままでは何のためのS評価かが分かりません。

例えば27ページの人事異動自己申告制度の項目は、2か月前倒しして実施しているのだから、A評価ではなくS評価でもよいかもしれません。例えばこういうのがS評価ではないのではないかと思うのですが、S評価はどういうケースの場合なのか、わかりやすく説明してほしいと思います。

(川端総合政策部長) 具体的にわかりやすくとの指摘がありましたが、3ページにあるように、政策期間内での取り組みについてどういう風に進捗したのかというものが評価の目安です。前もってS評価の部分が目標をもう少し明確に定めて、今年はこんなところを重点的にやってみようとかを定めていけば、もう少しS評価も出てくると思います。今後は各部署で重点的に取り組むものを計画しながら、S評価が1~2つ出てくるように努力していきたいと思っています。

(杉原会長) 数パーセントでもいいからS評価が出てきてほしいと思います。これは、モチベーションの問題にもつながりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

(金子委員) 27ページ3番、人事異動自己申告制度とあるが、単なる自己申告制

度ではなく人事異動に直結することは、職員はわかっているのですか。
(篠崎総務部長) 書式には、人事異動とは入っていませんが、現実には人事異動のための自己申告となっています。

(金子委員) コメントを見ると目標管理もやっているように見えます。わざわざ、人事異動だけに限定することはないのではないのでしょうか。

(篠崎総務部長) 22ページにある人事評価制度の中で、それぞれの職員の役職や役割、1年間の組織の目標を、課長・部長らが評価をしています。職員は希望や職種を持っているが、人事サイドではなかなか個人の意見までは把握しきれっていません。職員にやる気を起こさせるためにも、可能であれば希望を採用してあげたいため、一つの参考資料としています。部長・課長のヒアリングの中でも、人事担当と合意形成し、なるべくやる気を起こさせるためにも、自己申告という形で取り組んでいます。また、仕事以外にもプライベートなことや家庭のことなど個人の悩みも申告に含まれています。移動先でもうまくカバーしてあげられるようになっていきます。

(金子委員) 同じ課にいても、やる気を出させることは必要ではないのですか。人事異動に限定しないで、単なる自己申告制度でもよいと思います。

(篠崎総務部長) これからは中身を改善しながら、実施していきたいと思います。

(渡辺委員) 2ページ、取組における財政効果について、いい資料、具体的な数字があるので、大いに市民に公表してほしいと思います。行政の人たちの仕事は税によって運営されています。これだけのことを努力して、これだけの効果があるのだということを、ぜひ大いにPRして、市民に行政の努力を知ってもらいたいと思います。

もう一つ提案があります。36ページ2番、人事交流の促進ですが、県から市へ、市から県への人事交流が行われていますが、官から官だけではなく、できることなら民間への派遣・研修を短期でもいいから実施してはいかがでしょうか。例えば、窓口の係は、スーパーのレジ打ちを体験してみるといったものです。民間においても、他業種への派遣研修はやっています。民間を体験してきて、民間ではこんないいことがあるとかを、自分の職場に戻ってきてから発表することもよいと思います。職員の資質の向上にもつながるし、考えてもらえたらと思います。

(杉原会長) いろいろ意見はあるかと思いますが、この続きはヒアリングでもできますので、保留としていただいて、次の議題へ移ります。

(3) 行政評価市民評価について

(杉原会長) 行政評価市民評価について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料2に基づき説明

今回の行政評価市民評価制度については、運用改善をします。

1 ページ、1 の市民評価の目的、2 の特徴は、従来どおりで変更はありません。

- 2 ページ、3 の市民評価の対象ですが、総合計画基本計画に位置づけられた事業等から選定するのは同様ですが、30 事業を、今年度からは10 事業にしたいと考えています。

これは、昨年の運用改善に向けた意見の中に、1 事業あたりの審議時間が短いので、審議する事業の数を絞り込み、1 事業にかかる審議時間を増やしてほしいというのがあり、それを踏まえたものです。

- また、選定方法ですが、市民評価の対象の①総合基本計画に具体的に位置づけられている事業、②原則500万円以上の事業、③非裁量の事業を除くという条件に当てはまるものから、前期基本計画での評価対象事業と重複するものを差し引いた事業を提示して、行政改革推進委員会において10 事業を選定する方法を考えています。
- 昨年までは、行政側で条件に該当する120 事業を選定し、1 年度に30 事業ずつ評価する方法でしたが、今回から、全10 事業を推進委員会が選定していただくという案です。
- 4 評価ヒアリングの視点 以降、5 評価の方法、6 評価結果の取りまとめ、7 意見の反映、8 意見の講評 については、昨年同様です。
- 5 ページ、6 ページ目に、ヒアリング資料及び個別評価シートの様式がありますが、様式は昨年と変わりません。
- 昨年の運用改善に向けた意見の中に、担当課からの事業の説明について、事業の概要や必要性の説明に重点が置かれ、事業の熟度・緊急性、効率性の説明が弱いと指摘がありましたが、1 事業にかかる時間が延びることと、説明者にその点を留意してもらうことで、改善していけると考えています。

(杉原会長) 市民評価のやり方ですが、前回からの異なる点は、抽出事業を30 事業から10 事業に変更するというものでした。しかもその10 事業どれを選ぶかというところは、委員のみなさんに選定していただくというものでした。過剰な負担のように思われるかもしれませんが、ご協力いただきたいと思います。

委員の皆様から何かご質問がありますでしょうか。

(渡辺委員) 我々の提案を聞いてもらって事業数を減らすということで良いと思いますが、5 番・6 番の評価のためのヒアリング資料と個別評価シートは昨年のままということになっていますが、1 事業についてかけられる時間が増えるわけですので、添付資料として具体的なものは出して

いただけるのでしょうか。

(事務局) 基本的な資料は、昨年同様に考えています。説明資料として、より詳細に説明するという形でやっていきます。必要に応じて、その他の資料をそろえる形になります。現時点では、その他の資料の詳細については決まっています。

(渡辺委員) 今までヒアリング資料の中で、具体的な数値・目標・措置などが書かれているわけですが、実際には、なかなか詳細にまでは書かれていなかったこともありました。詳細な意見を出すためのものになる資料は、できるだけ早く我々に提示していただきたいと思います。内容の良くわかる資料を早めに用意していただきたいと思います。我々も勉強して、正しい評価をしていきたいと思います。

(川端総合政策部長) 昨年までは1事業につき20分ぐらいしか掛けられず、用意する資料も限られていました。今年度はできるだけ丁寧な資料にして、ご意見をいただけるよう、前もってお届けします。

(杉原会長) 行政側はなかなか大変なことだと思います。1事業に50分かけるわけで質問がたくさん出ます。事前通告の質問ではなく、いきなりたくさん出てくるので、それにきちんと答えていくためには、その準備が必要です。

事前に資料を用意してもらうのはお願いしますが、資料をどこまで用意するかは、行政側にお任せします。これまでのヒアリングよりプラス30分ありますので、説明できるように事前の準備をお願いします。また、ヒアリングシートの様式など、同じシステムを使いますので、シートは変えるものではないと思っています。時間を十分掛けられますので、詳細な説明をいただけると思います。

(4) 今後の日程について

(杉原会長) 今後の日程について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料3 平成24年度委員会の日程表をご覧ください。

秋以降の会議は全部で6回を予定しています。まず、10月に市民評価対象事業を選定していただきます。11月からヒアリングと審議に入り、12月には結果のとりまとめを予定しています。

11月の開催日については、毎週開催ということになりますので、ご協力をお願いします。昨年から前倒しにしていますのは、次年度の予算編成に反映できるように配慮してのものです。

具体的な日程ですが、10月2日(火)午後1時30分から、ゆうゆう館会議室で開催します。ほかの日程は、今後調整して、決まり次第委員の皆さんにお伝えします。

- (杉原会長) 日程についての説明がありました。
委員の皆様から何かご質問がありますでしょうか。
- (金子委員) 現在の委員の任期は11月3日までだったかと思いますが、その辺はどうなのですか。
- (事務局) 11月3日までです。委員の改選後に市民評価を始めると、まとめの時期が遅くなってしまいますので、10月の委員会の事業選定までは、現メンバーで開催いたしますが、11月以降のヒアリング・審議は、改選後の新メンバーになります。
- (杉原会長) 10月2日までの会議は今のメンバーでやってもらいますが、ヒアリングと審議は11月3日以降になるので、新しいメンバーでやっていくということです。
では、選定事業の設定について、事務局から説明をお願いします。
- (事務局) 事業の選定については、資料2の2ページ、3 市民評価の対象がありますが、①総合基本計画に具体的に位置づけられている事業、②原則500万円以上の事業、③非裁量の事業を除くという条件に当てはめて、事務事業500事業すべての中から、条件に合わせて抽出した事業の詳細を提示して、そこから10事業を選んでもらいます。
事務事業のとりまとめは現在作業中ですので、今ここでは提示できませんが、10月2日の次回までに委員の皆さんに見てもらえるよう、事前に郵送等でお届けします。
- (杉原会長) 総事業の中から先程の条件で選び出された事業のシートの中から、選び出してもらいます。シートの中には、事業の名前だけではなく、事業の具体的な情報が入ったものを用意してもらいます。
たぶん、みなさんが10事業選んだものは、全員の選んだものが必ずしも一致しませんので、例えば、上位から10事業とかの方法もあるかと思いますが、その辺は事務局では何か考えていますか。
- (事務局) 委員のみなさんで協議して、委員会の総意として10事業を決めていただきたいと考えています。その作業を10月2日の会議で行っていたら、11月からのヒアリングに移っていきます。
- (杉原会長) 9月中に配られる資料から10事業選んでいただいて、それを持ち寄って、ここで協議して10事業を決めるということですので、よろしくをお願いします。
送られてきたシートを見て、何か意見がありましたら、質問してください。

(5) その他

- (杉原会長) その他について、事務局から説明をお願いします。
- (事務局) 会議録については調整が済み次第、郵送させていただきます。内容を

ご確認いただきまして、加筆・訂正がありましたら事務局までご連絡
いただきたいと思います。訂正内容等については次回開催の委員会の
冒頭で修正後の会議録についてご確認いただきたいと思います。

- (杉原会長) このほか、何かご質問がありましたらお願いします。
- (関口委員) 22ページ、人材育成において国家試験を受けているようだが、市役
所から、こういう国家試験を受けるとか、取ったらいよいよとかの指示
があるのですか。
- (篠崎総務部長) 資格の取得は、全職員向けに制度の周知はしています。資格は、自分
の職種で活用できるなどから、各自で判断しています。一覧表などの
提示はしていません。
- (前原委員) 2ページ、補助金の見直しで財政効果が約3,000万円上がってい
ますが、補助団体の統合は進んでいるのですか。
- (篠崎総務部長) 合併前の補助団体がそのまま継続していたり、同類の補助金もまだあ
ります。このまま継続していったのでは、団体の育成につながらない
ということで、昨年度大幅に補助金の見直しを推し進めて、各部にお
いて、同様な団体は極力統合して、組織の見直しをお願いしました。
長年の経緯があるので、すぐにはなかなかいい形には表れないが、整
理・統合の努力をしています。
- (杉原会長) 他に質問が無ければ、本日の会議は、これで終了とします。

以上